

二〇二二年 唐丹小学校長 柏崎裕之編

古代の須恵器復元

よしもと しゅうほう
好本 宗峯

(本名 としかつ)
年勝 一九三八〜二〇二〇

― 須恵器
「**礪**」
(ハソウ)の旅路「唐丹の子供たちに届くまで」―



二〇二二年「つなぐ」

未来へとつなぐ 「思い」

釜石市立唐丹小学校 校長 柏崎裕之



学校の窓から見える唐丹湾。今

も海は、静かで穏やかです。海は、

昔から私たち人間に多くの恵み



を^{あた}与えてくれました。しかし、海は
私^{にんげん}たち人間にたびたび^{しれん}試練も与え
てきました。^{あた}

平成二十三年（二〇一一年）三月

十一日、東日本大震災津波が発生し

ました。この時、今の六年生は〇歳。

五年生^{いか}以下の皆^{みな}さんは、まだ生まれ

ていませんでした。

太平洋沿岸^{たいへいようえんがん}のまちでは、多^{おお}くの

人々^{ひとびと}が犠^{ぎせい}牲となり、多^{ざいさん}くの財^{うしな}産が失

われました。唐丹地区^{とうにちく}も例^{れいがい}外ではな

く、唐丹小^{きゅうこうしや}の旧校舎も津波^{つなみ}に飲^のみ込

まれて大破^{たいは}しました。

震災^{しんさいちよくこ}直後^{だいこんらん}は大混乱^{だいこんらん}でした。そんな

中、日本国内や世界中から多くの人々が駆けつけて私

たちを勇気づけ、支援してくれました。

あれから十二年。今も変わらず、私たち唐丹小・中を

支援し続けてくれる団体や個人の方々が大勢います。

おかげで私たちは、ここまで復興の歩みを進めることができています。



この御恩に応えるために、キミたち

唐丹小・中の子どもたちにできること

は何でしょうか。感謝の思いを手紙で

伝えるという人もいます。ま

た、歌で伝えるという人もいます。思

います。それらも立派な考えです。



しかし、もつと広く大きな心で見渡し、
考えてみましょう。御恩に応えるた
めに、キミたち唐丹小・中の子どもた
ちにできること。それは、キミたちを
支援して下さっている方々の「思い」
を引き継ぎ、未来へとつなぐことです。

その「思い」とは……

「困っている人や苦しんでいる人がいたら

見て見ぬ振りをしない」

「自分にできることを考え

多くの人々と協力して行動する」

キミたちを支援して下さっている方々の「思い」とい



うバトンを引き継ぎ、未来へとつなぐ。

それがキミたちの使命であり、恩返しで

あると考えます。そんな考えから、ハ

ソウに刻む言葉を『つなぐ』としました。

今こうしている瞬間にも、世界で、

日本で、身近な所で、困っている人々

や苦しんでいる人々がいます。そんな人々のために、

自分にできることはないか、みんなと協力してでき

ることはないかと考え、行動する人間になってほしい

と願っています。

令和五年一月十二日



2020年3月、政府の新型コロナウイルス感染症蔓延防止策で、全国学校一斉休校措置がとられ、学校訪問が叶わず、止む無くハソウを郵送し学校長に託しました。

3月14日、唐丹希望基金が参加する最後の卒業式。卒業式後に行われる父母主催「感謝の集い」も延期。唐丹希望基金支援者50名が参加するはずでしたが、新型コロナウイルスに記念行事の全てが奪われました。

写真の生徒達は、2011年4月唐丹小学校に入学し2020年3月に唐丹中学校を卒業した12名。唐丹希望基金の活動目標をこの生徒たちが中学を卒業するまでとし、2020年3月末に9年間の募金活動に区切りをつけました。tonidayori2015.pdf (eec-2020.com)

2020年4月から共生社会を目指し、新たな歩みを始めました。ハソウを2030年3月まで贈ります。

(写真 2019年11月撮影)

